

知的財産事例

株式会社トライテック

製鉄から医療機器分野への挑戦 知財が創出する新たな価値を携え日本から世界へ

事業内容

2005年設立
製鉄所向けの特殊工具、土木資材の設計・製造

知的財産権と内容

特許第6347896号	燃料供給装置（回転式PCバーナー）
特許第6403335号	高炉等の出銃口面削り装置（自動式面削り装置）
特許第6242560号	硬性内視鏡のカバーおよび内視鏡ユニット（硬性内視鏡洗浄装置「OPLYS」）
商標第6064066号	T r a r g a（トラーガ）
意匠第1656880号 意匠第1656979号 意匠第1656881号	マッドガン用リング

他 商標権7件、特許権21件、意匠権6件、実用新案権1件

（2024年12月現在）

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 竹崎 博さん

知財が生み出す製品でグローバルに展開

当社は、製鉄所向けの特殊工具や土木資材の設計・製造を主な事業としている。もともと竹崎代表は東京都内で土木関連資材の会社を経営していた。大分県への出張の際に、偶然、製鉄所で生じていた問題を自社の土木技術を用いた製品により見事解決。その後、同技術を元に作った試作品が製鉄所で採用されたことに伴い、2005年、製品製造のために大分県に当社を設立した。以来、取引先のニーズに応えた信頼性の高い製鉄工具や土木工具等の製造販売を続けており、様々な受賞歴をはじめ、各方面で高い評価を得ている。知財については、2007年の国内特許の取得を皮切りに、国際特許も取得し、広く海外にも事業を展開している。また、最近さらなる成長を目指し、医療機器分野にも進出。同分野でも海外での販売が決まるなど、世界を見据えて積極的に取り組んでいる。

アイデアを形にして特許で守る 知財活用による技術革新

若いころから知財に興味を持っていた竹崎代表は、会社設立後、初めての開発製品に関する技術で、特許を取得した。同技術は、鉄を高炉から取り出す際に穴をあけるドリルの先端に、超硬合金チップを配置して固定方法を改良し、1500度もの高温となる鉄に対しても高い削孔能力を実現したものである。また、高炉で安全にバーナーを回転させる製品の先端部品では世界初

となる「アルミナ拡散表面処理技術」を使用し耐熱処理効果をアップさせた「燃料供給装置（回転調整機能付きPCバーナー）」等でも特許を取得している。知財については、以前は全て弁理士に任せていたが、主体的な管理・活用の必要性を感じ、2013年、社内に知的財産部を設置。これにより、社内でも知財の重要性が再認識され、社員の意識が変わってきているのを実感しているという。現在は、知財担当者や弁護士などの専門家とともに知財戦略の強化に取り組んでいる。また、支援機関等から紹介を受けた支援制度も積極的に活用。特許取得により、知財への意識が高いと外部から認識され、声がけされることも多くなったという。特に、当社は経済産業省の「地域未来牽引企業」に選定されており、税制優遇措置、融資、海外展開支援サポートなど様々な支援を有効に活用している。加えて、社長自らこまめに支援機関に相談するなど、日頃のコミュニケーションも大切にしている。こうしたコミュニケーションの中から製品開発につながることも多く、医療分野への新規参入を果たした医療機器「硬性内視鏡洗浄装置OPLYS」の開発も、大学の発表会での会話がきっかけだった。このように、当社は技術開発と知財の取得・活用の好循環を実現し、成長を続ける企業だ。

特許を武器に 海外展開・新分野参入

「アイデアが浮かんだらすぐにプロトタイプを作って特許取得を目指す」と竹崎代表は話す。開発製品を守

り、参入障壁も築くことができる知財を有効に活用している。海外展開においては、特許取得により海外の大企業とも取引がスムーズに進んだり、商品に商標を取得したロゴマークを入れることで模倣品の対策ができたりする等のメリットを感じているようだ。ただし、海外においては、国際特許の取得に伴い技術情報が公開されると特に模倣リスクが高まることから、分割出願とする等、慎重に戦略を立てながら取り組んでいる。また、医療業界への新規参入では「競合となる大手メーカーはすでに実績が多くあるため、不安もあったが、特許を持っていたことが新規業界参入への自信となった」と竹崎代表は話す。今後は、高い技術力と知財を武器に、製鉄・土木事業はもちろん、医療分野に関しても他社との連携等を通じて、積極的に展開していく方針だ。

知財取得における苦悩



海外特許の取得は、国によって異なるシステムに合わせなくてはならず、また出願時には翻訳が必要となるなど、

そう簡単ではない。権利維持のための年金支払いについて、日本は特許の登録年を第1年目とするのに対し、欧州では出願日を第1年目とすることなどから、取得・維持にかかるコストは日本よりも高いことがほとんどだ。そのため出願先の国を選ぶ際には十分な検討を重ねているという。それでも特許を取得する理由は「知財から生まれる可能性に期待するからだ」と竹崎代表は語る。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

当社で知財につながるアイデアをいくつも生み出している竹崎代表は「どこの会社にも、アイデアを創出できるタレントは必ずいる。重要であるのは、そのタレントを探し出すことと、タレントが活躍できるような環境を用意することだ」と語る。開発してすぐに特許を取得できるわけではない。何度もあきらめず研究し、開発した末に“良い特許”が生まれる。そして「特許を取得したら、しっかり管理し、戦略的に活用していかなければならない」と併せて語った。



高炉で安全にバーナーを回転させ適切な状態に調整する回転調整機付きPCバーナー



出銃口（溶銃の排出口）面を効率的に平滑化し作業効率をあげるマッドガン用ビット



知的財産活用のポイント

知財への熱意が生み出す製品が信頼度アップと社員の自信に

大学や他社との共同開発により生み出した技術についても、知財を共同で出願するなど、保護を徹底している当社。こうした権利の保護は取引先からの信頼や安心感につながり、取引拡大に貢献している。また、社員にとっても、知財の取得は自ら開

発したものが「知財」というカタチになることで自信を得られる、という効果があるという。引き続き知財を社内外のニーズの開拓や開発を盛り立てていく起爆剤とし、そこで得た技術で知財を取得・活用する、という良いサイクルを回していくことで、会社の発展につなげていく。

COMPANY DATA

取材：2024年12月

企業名：株式会社トライテック 所在地：大分県大分市青崎1-3-42 電話番号：097-578-6156

URL：<https://www.trytec-japan.com/>（OPLYS製品HP：<https://oplys.jp/>）創業：2005年 資本金：1000万円 従業員：30名

